

結論 ←	意見交流 ←	質問・応答 ←	立論
・多くの人に好まれ、利用されている。 ・手軽なのでいそがしい時には積極的に利用したい。	・たしかに 健康は大事 でも忙しい時は助かる	・好みに合わせて選べる。 味付け 量	(理由1) おいしくて人気がある ・アンケート調査 アンケート 円 グラフ (理由2) 価格が 安い ・カレーのレトルト五百円以内
・栄養バランスを考えた手作り料理をなるべく取りたい。 ・インスタント食品の取りすぎは体に悪い。	・ 取りすぎはこわい ・新せんな材料は栄養がある	・手作りなら一度に大量に作れるから 安い 。 ・体をこわすと病院代がかかる(かえって高くつく)	(理由1) 料理が下手になる ・料理の仕方を覚えたい (理由2) 栄養がかたより体をこわす ・こい味付け 味覚障害 ・炭水化物 太る ・てんか物 のうに悪い

【学習課題】ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう

めあて
 モデルディベートを通して
 よりよい話し合いの仕方(技)を見つけよう

論題
 インスタント食品を積極的に取り入れるべきである

7・8 / 12時間目 指導略案

- ワークシート
- ディベートの話型(例)
- 進行表
- 立論カード
- 作戦カード
- 司会者の手引き
- 時間記録用紙
- 判定カード

活動のねらい
 モデルディベートを通して、よりよい話し合いの仕方について知ることができるようにする。

1 めあてを確認する。

友達の話合いの様子から、よさや改善点を見付けられるようにする。
 ワークシート(フロアメモ)には、進行に沿って友達の話合いの述べ方や発言内容の「良い点」「アドバイス」を具体的にメモするよう説明する。

2 役割を確認し、モデルディベートを行う。

「司会者」「タイムキーパー」「討論者(賛成側)(反対側)」を確認する。
 ディベートの進行表に沿って、司会者に進めさせるが、一つ一つ解説を加えながら丁寧に進め方を押さえ、理解させる。

3 モデルディベートを終えて、よかったことや改善点について話し合わせる。

身に付けたい話し合いの技を視点に、どういう言い方が、分かりやすいか、説得力があるかについて話し合わせる。
 「ディベートの話型(例)」を使って、話し方のモデルを知らせる。

《身に付けたい話し合いの技》

- 立論の述べ方
- 根拠をはっきり
- 質問の仕方
- 質問の仕方
- 質問への答え方
- 相手の考えを受けて
- 資料の出し方
- 考えを強調するため

4 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

次時は、「小学生は午後9時以降にテレビを見ない方がよい」「宿題はなくすべきである」の二つの論題のディベートに向けて、準備していくことを確認する。また、いろいろな視点から考えを整理しておくように伝える。

* 実態に応じて、モデルディベートの回数や時間・モデルディベート後の話し合いの時間を工夫するとよい。